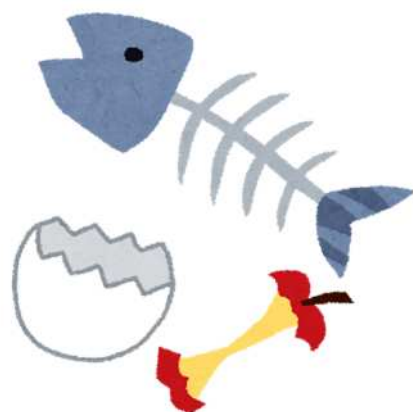


生ごみ減量化

# キエーロ作成・運用マニュアル

1. 用意するもの
2. 作り方
3. 毎日の使い方
4. 運用のコツ
5. よくある質問
6. 運用に役立つヒント集



**生ごみを燃やさな  
いからエコだね**



さいたま市環境局廃棄物対策課

# 1 用意するもの

- 土を入れる容器

(水抜き穴のある深底のプランター、衣装ケース・木箱など)

- フタにするもの

(今回はポリカ波板・角材・板・釘を用意したが、フタをした時に容器内に日光と空気が入ればよい)

- 黒土

(粘土質の土や砂利は避けた方がよい)

☆容器の大きさに応じてフタの寸法・黒土の量を調整する☆

↓今回用意したもの↓



## 2 作り方

① 容器に黒土を入れる



②板・角材を用意する



容器より少し大きくする！

③釘等でポリカ波板と板・角材を固定する



④隙間をあけてフタを設置する

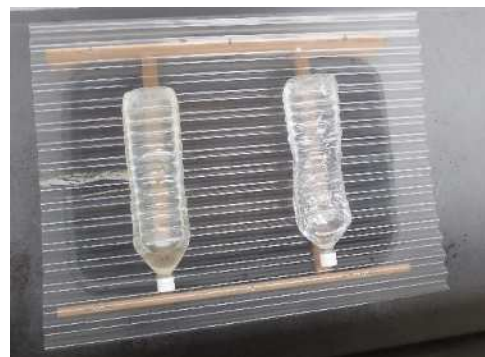


【重要】空気が入るように  
1 cm くらい空ける！

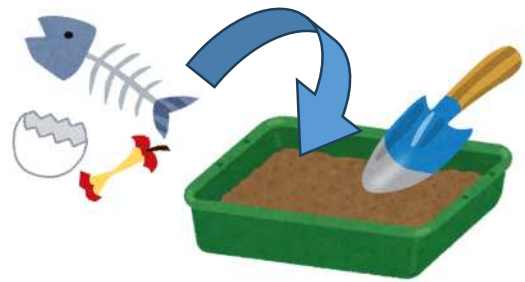
⑤完成！！



☆水入りペットボトルを上にとくと、  
強風対策と、水やりに使えて便利☆



### 3 🔄 毎日の使い方



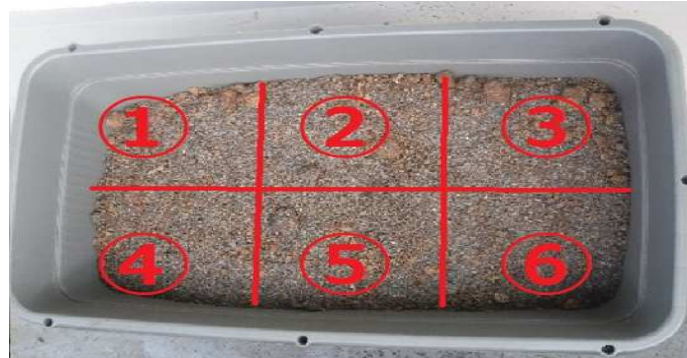
#### • 生ごみ投入の基本手順

1. シャベルで土を 15～20cm 掘る
2. 生ごみ（100～300g 程度）を投入
3. 水分が少ない場合は少量の水を加える
4. シャベルで土とよく混ぜる（微生物が分解しやすくなる）
5. 乾いた土でしっかり覆う（臭い・虫対策）

#### • 投入場所のローテーション

- プランター内を①～⑥などの区画に分け、順番に使う

①	②	③
④	⑤	⑥



- 1 区画あたり、1～2 週間程度の分解期間を設ける  
（例：4 月 1 日に①に入れたら、次に①に入れるのは 4 月 8 日以降にする）
- 完全に分解しきっていなくても、残っている物が少しであれば投入可能

#### • 記録のすすめ

- 日付・投入場所・内容・量をメモ
- 旗やマーカーで投入済みエリアを可視化すると便利

### 4 💡 運用のコツ

- ごみは細かいと分解が早い（細かく刻むと◎）
- 油物・肉類も OK



- 土の水分は「手で軽く握って団子ができるくらい」が理想

(ベチャベチャはNG)

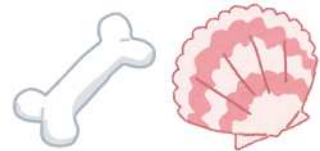
- 分解に時間がかかるもの

玉ねぎの茶色い薄皮、とうもろこしの皮・芯、枝豆の皮  
野菜の芯（キャベツの芯・大根の固い部分など）  
エビやカニの殻



- 分解できないもの

貝殻（ホタテ・シジミ・アサリなど）  
動物の大きな骨（鶏・豚・牛など）  
桃・梅などの大きな種  
食べ物ではないもの（プラスチック・金属・紙など）



## 5 よくある質問

- Q. どこに置けばいい？

→ 屋根がある庭先やベランダ等が理想的だけど、雨が入らないところならOK。

- Q. 毎日入れてもいい？

→ OK。ただし同じ場所に連続投入すると分解が追い付かなくなるため注意。

- Q. 臭いが気になるときは？


→ よく混ぜた後、土を厚めにかぶせる。必要なら炭やくん炭（燻したもみ殻）を少量混ぜても◎。

## 6 運用に役立つヒント集

- (1)  「土の消臭力」を高める工夫

- くん炭や竹炭粉を少量混ぜる

→ 土の通気性と消臭力がアップ。虫も寄りにくくなる。

- (2)  土の再利用・活性化

- 半年～1年に一度、土を天地返し（上下を入れ替える）  
→ 微生物の活動が均一になり、分解力が復活。
- 土が硬くなってきたら腐葉土や黒土を少量追加  
→ 柔らかく保つことで分解効率が向上。
- 家庭菜園の肥料として使う  
→最後の生ごみを投入後、概ね1か月程度は期間を空ける。  
また、投入する生ごみの塩分濃度にも気をつける。



### (3) 🦋 虫対策のちょっとした工夫

- 殺虫剤をスプレーする  
→ 土を家庭菜園等に使用しないのであればOK
- 土の表面に木酢液を薄めてスプレー  
→ コバエやアリの忌避効果あり（濃度が高すぎると微生物にも影響するので注意）
- 生ごみを入れる前に冷凍しておく  
→ 虫の卵を殺し、臭いも抑えられる。（特に夏場に有効）  
ただし、温度が下がるため、分解速度が遅くなるかも。



### (4) 📍 投入場所の管理をラクにする方法

- 割り箸や小旗で「投入日」を立てておく  
→ どこにいつ入れたかが一目でわかる
- スマホで写真記録をつける  
→ 見た目の変化や分解状況を振り返られる

### (5) 🌱 水分調整のコツ

- 水分が多すぎるとき：新聞紙や乾いた土を混ぜる
- 乾燥しすぎているとき：霧吹きで軽く湿らせる（ベチャベチャはNG）

### (6) 🧠 分解力が落ちてきたら

- 土の温度が低すぎる（冬場）  
→ 日中に日が当たる場所へ移動
- 微生物が減っている  
→ 米ぬかや腐葉土、食用油を少量混ぜて活性化



【参考事例】 ↓ あじの開きを投入した記録 ↓

1日目



3日目



11日目



17日目

